

1 安樂寺・古墳(県指定史跡)

天平九年(737)、行基菩薩による開基。山門には「瑠璃光殿」という額が掲げられている。これはお薬師様が祀られていることを示すもので、眼病の者が祈願すると治るといわれ、昔から親しまれた。ご本尊は本堂裏にある古墳石室の壁面に彫られた七体の石仏で、十二年に一度(毎年)三日間(四月七・九日)、嚴堂の扉が開かれ参詣できる。本堂内には不動明王や、大日如来があり、境内には、将棋の駒形をした南北朝時代をくだらないといわれる異形石碑(市指定史跡)や嘉永五年(1852)奉納された倉賀野八景の額が目とまる。

四月八日の花まつりにはお釈迦様の像に甘茶をかけて無病息災、家内安全の祈願のために多くの人々が訪れ賑わう。

2 永泉寺(曹洞宗、本尊 駅迦牟尼佛)

天正元年(1573)、倉賀野城主、金井淡路守の開基。以前は長泉寺と呼んだ。参道には寺域や修行場などの特別な地域を示すための結界石と呼ばれる石が立つ。境内には金井淡路守の墓や、参勤交代の途中で亡くなった加賀藩の御典医、森良齋の灰塚がある。また寺には金井淡路守の奥方にまつわる「幽靈石」や、汽車にばけ大怪我をした天、書院には松久朋琳(故人間国宝)・

宗琳親子作の觀音像がある。倉賀野宿の時代を感じさせる飯盛女の墓石もある。また、飛地境内に阿弥陀堂(通称:閻魔堂)がある。

■**3 善光寺(淨土宗、本尊 阿彌陀三尊)**
不許葷酒入山門」と彫られている。臭いの強い野菜やお酒を持ち込んではならないという意味。

4 菩提寺(真言宗、本尊 延命地蔵菩薩)

鎌倉時代以降、長野善光寺の信仰が高まるにつれて、関東・東北地方を中心広く各地で造立された、一光三尊(一つの光背の前に三尊を並べて安置)の善光寺式三尊仏。像は、南北朝時代後期につくられたと推定される。十二年に一度(毎年)四月八日に御開帳がおこなわれる。

■**5 石仏五体(市指定重要文化財)**
正岡子規に師事し、数多くの優れた作品を残した。幼年時代から高崎に移り住み、この地で活躍した。

■**6 村上鬼城(1865~1938)**
向かつて右より「地蔵」「聖観音」「胎藏界大日」「尊名不明」「阿弥陀」の順に坐像があらわし、江戸から高崎に移り住み、この地で亡者の衣服をはぎ取ることから子ども達も恐れた。

■**7 舞頭川婆さん**
恐ろしい顔であぐらをかいている。三途の川で亡者の衣服をはぎ取ることから子ども達も恐れた。

■**8 冠稻荷神社(別名三光寺稻荷)**
延宝二年(1674)に勅進がおこなわれ、江戸から官位をとつて祀ったのが始まりと伝えられる。旅籠や飯盛女の信仰を集めめた。明治四十二年倉賀野神社に合祀され、飯盛女の名が刻まれた石玉垣も移された。その後昭和十年に地元横町の人々の熱意により復祀されることとなり、もとの場所に現在の社殿が再建された。四月八日には例祭がおこなわれる。

■**9 田子屋の獅子舞**
昭和初年に改造修理。高さ約三・三メートルのところにシャギリ台があり、その上に飾りをする。現在は、南町の山車倉に保管。

■**10 横町の山車(屋台)**
終戦後に屋台を出したことがある。昭和二十一年(1946)新憲法交付の際に、荷車に飾り付けをしたような形の屋台を出した。冠稻荷の隣に屋台倉庫があり保管されている。

■**11 仲町の山車(屋台)**
三輪形式の屋台。普段は八幡宮に保管されている。この屋台は昭和二十三年頃まで道祖神焼きに曳き出されていたものである。

■**12 田屋町の山車(屋台)**
三輪形式の屋台。普段は八幡宮に保管されている。この屋台は昭和二十三年頃まで道祖神焼きに曳き出されていたものである。

■**13 南町の山車(屋台)**
三輪形式で、金時(坂田公時)の人形を飾る。三輪の引き棒付や車車が曳かれていた。井戸は、十年に一度開帳される。

■**14 仲町の山車(屋台)**
三輪形式で、金時(坂田公時)の人形を飾る。三輪の引き棒付や車車が曳かれていた。井戸は、十年に一度開帳される。

■**15 田子屋の獅子頭**
その起源がいつかは不明だが、田子屋の公民館に保管してある獅子頭を入れる長持には、宝暦七年(1757)の墨書きがある。かつて、倉賀野神社の祭礼の際の巡行では先頭を進んだこともある。またその舞は、厄払いのためにおこなわれたこともあり、雨乞いにも靈験があるといわれている。

5 林西寺(真言宗、本尊 阿彌陀三尊)

永正十三年(1516)、法印乗傳和尚の開基。山門の手前右手に石仏が整然と並べられているのが印象的。右から順に、宮原十一面觀音、清水觀音、馬頭觀音が並ぶ。馬頭觀音は万福寺(江戸初期に廃寺)にあつたと伝えられている。本堂の西側の大師堂は、東京高輪の高野山真言宗東京別院の管長部屋で移築したものである。墓地には尊海上人の墓がある。

岡山県の裸祭りの創始者で、江戸出仕の帰途に亡くなつた。

6 岩原十一面觀音

以前はこの辺一帯の宮原の莊園の守り神であった。無数の石が置いてあり、その石でお腹をさすると丈夫な子が授かり、また、体の痛みところをさすると治るという言い伝えがある。願いがかなうと、元の石と新しい石を持つてお参りした。

7 神社

岡山県の裸祭りの創始者で、江戸出仕の帰途に亡くなつた。

8 尊海上人

岡山県の裸祭りの創始者で、江戸出仕の帰途に亡くなつた。

9 神社

岡山県の裸祭りの創始者で、江戸出仕の帰途に亡くなつた。

10 大杉神社跡

当初は雷電宮として元和元年(1615)に創建と伝えられ、文化四年(1807)に倉賀野河岸の問屋衆の寄進により、茨城県阿波の大杉神社から大杉大明神(水運の神様)を勧請。弘化三年(1846)に再建と伝えられる。明治四十二年(1909)八幡神社に合祀された。六月二十七日には大杉神社跡の碑の前で神事がおこなわれる。

11 閻魔堂

正式には阿彌陀堂(江戸時代までの呼称)。倉賀野宿の東側、中山道と例幣使道との分岐点にある。お堂の真中に閻魔大王が鎮座。閻魔大王は地藏菩薩の化身といわれ、信仰すれば地獄に落ちず救われるといわれている。

八月十六日には例大祭がおこなわれ、夜には数珠をみんなでまわし、鉢を叩きながら念佛を唱える百万遍がおこなわれる。天井絵を拝見することができる。

12 正六觀音

正中三年(1326)、豪族町田庄兵衛正源氏が安置したと伝えられる。家内安全疫病退散を祈願、村内近郊近在の崇敬をあつめる。

13 飯玉縁起の影刻

正中三年(1326)、豪族町田庄兵衛正源氏が安置したと伝えられる。家内安全疫病退散を祈願、村内近郊近在の崇敬をあつめる。

14 大師堂

正中三年(1326)、豪族町田庄兵衛正源氏が安置したと伝えられる。家内安全疫病退散を祈願、村内近郊近在の崇敬をあつめる。

15 馬頭觀音、清水觀音、宮原十一面觀音

正中三年(1326)、豪族町田庄兵衛正源氏が安置したと伝えられる。家内安全疫病退散を祈願、村内近郊近在の崇敬をあつめる。